

# 内丸緑地のヒマラヤスギについて（概要版）

## 1 目的

県が管理している内丸緑地に41本植栽されているヒマラヤスギは、樹高が25メートル以上に達しており、枝が落下しているほか、将来的には倒木等の危険性が生じています。

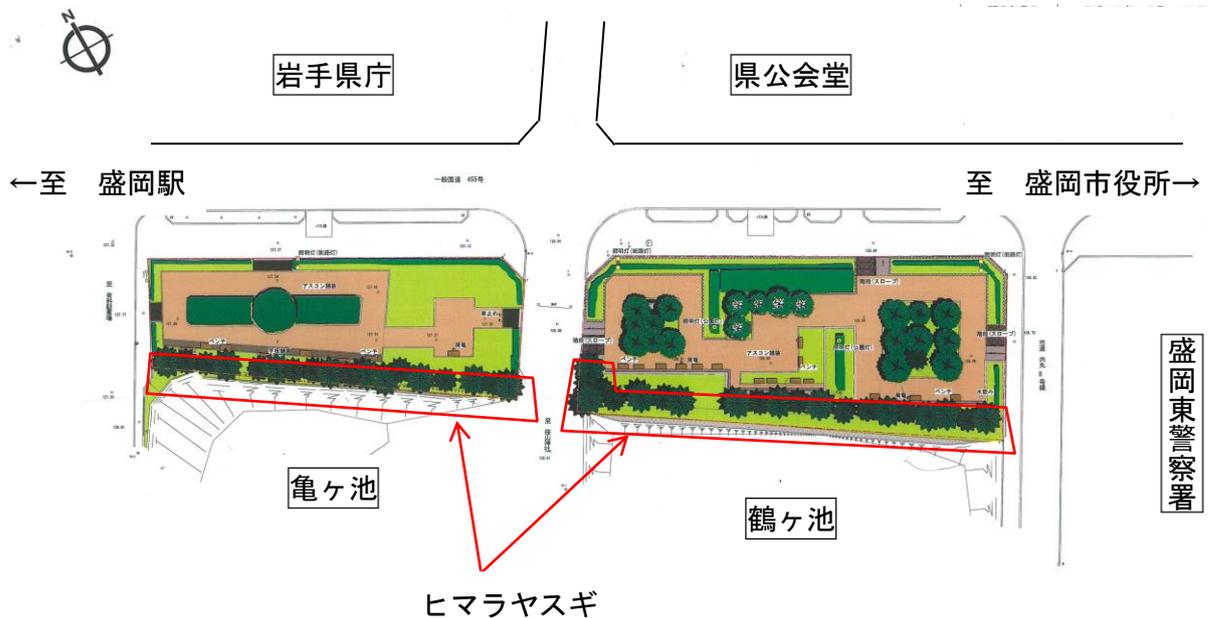
県では、県民の皆さんに、安心・安全な緑地に親しんでもらうため、高木化したヒマラヤスギに対する対応策等について、内丸緑地管理検討委員会を設置して検討しています。

今回、ヒマラヤスギに対する対応方針を取りまとめたので、県民の皆さんから広く意見を聴くため、パブリック・コメントを実施するものです。

## 2 内丸緑地の概要

内丸緑地は、県立図書館、消防署等の移転後の跡地に、緑地及び広場として整備され、昭和52年4月1日に開設しました。面積は約0.3ヘクタールです。

内丸緑地は、サツキとドウダンツツジの生垣に囲まれ、緑地内にはヒマラヤスギ、ヤマボウシ、ナナカマド、シラカバ、ユリノキなどが植えられています。特に、緑地の南側、盛岡城跡公園の鶴ヶ池、亀ヶ池に接するように植えられているヒマラヤスギは、樹高が25メートル以上に達しており、木陰を作り出しています。



### 3 内丸緑地のヒマラヤスギ

#### (1) 植樹の経緯

内丸緑地のヒマラヤスギは、初めに旧県立図書館移転後の東側に植えられ、次に旧盛岡消防署移転後の西側に植えられました。

樹種としてヒマラヤスギが選ばれた理由は詳しくはわかりませんが、当時入手が比較的容易な木だったと言われています。

#### 【植樹当時の写真】



出典：『写真アルバム 盛岡・滝沢・岩手・紫波の昭和』（株式会社いき出版）

#### (2) 樹勢診断調査結果

県では、倒木の懸念が指摘されていたヒマラヤスギの詳細な生育状況を把握し、今後の望ましい管理について検討するため、平成 27 年度に樹勢診断調査を行いました。

調査の結果、倒木や折損などの甚大な被害発生の喫緊の可能性は小さいものの、根系の衰退、重心の上昇、枝の配置の偏りが生じており、倒木の危険性があることが判明しました。

### 4 対応策の検討

#### (1) 内丸緑地管理検討委員会

県では、高木化したヒマラヤスギに対する対応策等を検討するため、内丸緑地管理検討委員会を設置しました。委員には、都市計画、自然管理、森林生態の各分野の学識経験者、地元商店街の代表者、NPOの代表、隣接する盛岡城跡公園の管理者の6人を選任しました。

平成 28 年 12 月に開催した委員会では、ヒマラヤスギが薄暗い印象を与えている、地元商店街では倒木の危険性が話題となっている、広場としてイベント等に活用したい等の意見や、内丸緑地単独ではなく、盛岡城跡公園や桜山神社境内に隣接した一体の地域である立地条件を踏まえて方針を考えるべきという指摘がありました。

#### (2) 現状の整理

県では、ヒマラヤスギの対応案を検討するに当たり、内丸緑地が周辺地域からみてどのような状況に置かれているか、また、どのような立地条件にあるのかを改めて整理しました。

### ① 内丸緑地周辺の景観

盛岡城跡公園の一部である鶴ヶ池、亀ヶ池周辺には、ハス、アジサイ、ソメイヨシノなどが植えられており、時季が来ると花を咲かせる、色彩豊かで心が和む情景が広がっています。また、鳥居をくぐると、商店街の情緒と和風感がある街並みが、桜山神社の参道に沿って広がっています。

しかしながら、内丸緑地と、盛岡城跡公園周辺のこれらの景観は、ヒマラヤスギにより分断されています。

また、桜山神社参道の入口には鳥居が立っていますが、ヒマラヤスギにより目立たない状態になっています。

【左：鶴ヶ池のアジサイ、右：亀ヶ池のソメイヨシノ】



### ② 隣接する史跡

内丸緑地に隣接する鶴ヶ池、亀ヶ池は、かつての盛岡城の内堀に当たり、史跡の一部となっています。

緑地の西側では、ヒマラヤスギの根が亀ヶ池側の斜面に達し、また、根が地表に露出して、斜面に積み上げられている石積みを押し出しています。このため、石積みが崩落し、池周辺の地形に影響を与えています。

盛岡市で平成 25 年 3 月に策定した「史跡盛岡城跡整備基本計画」では、堀の形状を保全することが方針の 1 つとされており、ヒマラヤスギの根が地形に影響を与えている現状は、検討すべき課題として捉えられています。

### ③ 内丸緑地の立地条件

内丸緑地周辺は、盛岡城の正面玄関である大手に位置し、かつての内堀であった鶴ヶ池、亀ヶ池など、お城の入り口としての面影が残されています。

また、桜山商店街は、飲食店や店舗などが立ち並ぶ地域の憩いの場となっており、観光客や修学旅行の学生も訪れる盛岡市の観光地の 1 つとなっています。

内丸緑地は、単なる官庁街の緑地だけではなく、盛岡城跡公園の正面玄関であり、桜山神社参道及び桜山商店街の入り口であるという、歴史的にも文化的にも重要な立地条件にあります。

【左：鶴ヶ池側の斜面、右：亀ヶ池側の斜面（崩落が見られる）】



## 5 対応方針

県では、ヒマラヤスギを全て伐採する皆伐案に加え、ヒマラヤスギを残すことができる芯止め案、半数を残して伐採する案、数本を残して伐採する案の4つの案について検討しました。

ヒマラヤスギを残す案（芯止め案、半数を残して伐採する案、数本を残して伐採する案）では、将来的な倒木の危険性が残るなどの安全確保上の問題や、ワイヤー支柱の設置が必要となり緑地の利用が制限されるなどの利用上の問題など、さまざまな問題が残ります。

したがって、県としては、緑地内のヒマラヤスギ41本全てを伐採する、皆伐案を採用せざるを得ないと考えます。

ヒマラヤスギの伐採後は、より管理しやすい中低木を植樹することを予定しています。これにより、ヒマラヤスギに代わって緑地内に木陰を作り出し、市街地の貴重な緑を確保することができます。樹種は、岩手県や盛岡市にゆかりのある木を検討しています。

内丸緑地を今後、具体的にどのように利活用していくかについては、「お城を中心としたまちづくり計画」を進めている盛岡市の検討状況と歩調を合わせながら、時間をかけて検討していきます。

- ※ 検討した4つの案の概要や問題点については「内丸緑地のヒマラヤスギについて」の12ページをご覧ください。
- ※ ヒマラヤスギを全て伐採した場合の、東側（盛岡東警察署側）の緑地のすがたをイメージ図として添付しています。将来のすがたをイメージする際の参考にしてください。

## 6 スケジュール

ヒマラヤスギは、倒木や折損の喫緊の可能性は小さいですが、危険性が指摘されていることから、早期に対応策を決定する必要があります。

したがって、平成29年度に対応策を決定し、平成30年度に工事に着手したいと考えています。